

ふれあい通信

2024
1月号



Index

P2

特集

ヤングケアラーに私たちができること

P6

ケアマネ相談室

File 16

たまふれあいグループ連携施設のご紹介

その17

P8

スタッフ紹介

たまレポ!

グループホーム たまふれあいの家 登戸新町

ホーム長 萩原 正晃

ヤングケアラーに

私たちができること

ヤングケアラーの姿

ヤングケアラーとは、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている18歳未満の子どものことです。日本では2010年以降に調査研究が行われ関心が高まり、2022年度から厚生労働省にて「ヤングケアラー支援体制強化事業」が開始されました。

国の支援事業は始まったばかりですが、ヤングケアラーは増加傾向。喫緊の課題であり、地域の医療・介護・福祉が密接に関わる課題でもあります。私たちができる支援とは何でしょうか。



ヤングケアラーに関する調査(※1)において、小学生へのアンケート結果では、世話をしている家族がいる人全体で、学校や大人にしてもらいたいことが「特にない」の回答が多かったものの「自由に使える時間がほしい」「勉強を教えてほしい」という回答も目立ちました。

中学生に関しては、現在の悩みや困りごととして、世話をしている家族が「いる」場合、「学校生活に必要なお金のこと」や「家庭の経済的状況のこと」が高い割合です。また、大人に助けてほしいこと、必要な支援としては「自由に使える時間がほしい」「学校の勉強や受験勉強など学業へのサポート」の割合が高く「特にない」の回答も多い結果でした。

※1 2020年度～2021年度の厚生労働省「子ども・子育て支援推進調査研究事業」として実施された「全国の小学6年生・中学2年生・高校2年生・大学3年生を対象とした調査」

表面化しにくいヤングケアラー

家族のケアは家族が行うのが「当たり前」という規範意識

子どもが幼い頃から当たり前前にケアを行っている場合、子ども自身が過度なケアに疑問を持つことは困難です。また、家族が子どもを頼りにしている場合、ケアの放棄によって家族の期待に沿えない自分を責めてしまうこともあるでしょう。お手伝いとして行う家族のケアは、家族の一員として支え合って生きていくために必要なことです。しかし、子どもの年齢や成熟度に合わない過度なケアは、子どもらしい生活を奪うことになりかねません。

相談へのハードルの高さ

ケアをすることが日常的になっているため、支援が必要だという自覚が生まれにくく、相談することはないと思ってしまう点です。また、他人に家族の病気や障がいを知られたくないといった気持ちや、プライベートについて話すことへの抵抗感もあるでしょう。たとえば、友達に相談したときに、友人とは異なる生活を送っている自分を避けられてしまうのではないかと不安があることも、表面化しにくい理由として考えられます。

考察

ヤングケアラー支援と早期発見への課題

● ヤングケアラー支援とは

前述のように、子ども自身が「自分はヤングケアラーだ」という自覚がない、あるいは自覚はあるが相談へのハードルが高いといった理由から、自らが支援を求めることはごく稀です。そのため、ヤングケアラーへの支援では、関係機関や身近な人が家族と自然な形で関わり、信頼関係を築いていくことが大切です。

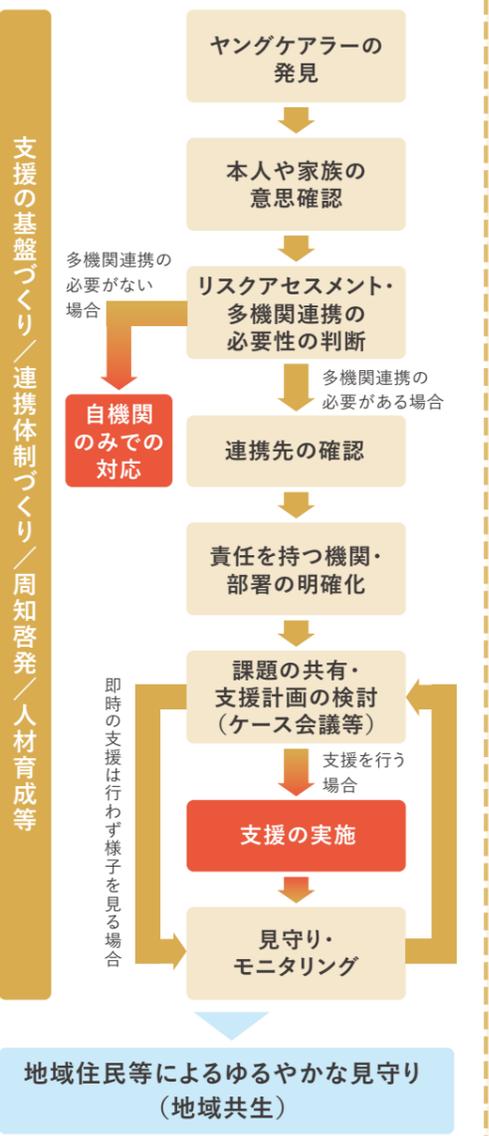
● 本人や家族の意思を尊重する

幼い頃から家族のケアを当たり前に

行ってきた子どもは、ケアをすることが自身の「生き方」となっています。また、家族から頼りにされる、ケアに感謝されることに生きる喜びを感じている子どももいます。家族を俯瞰して見れば、子どもが家族のケアをすることによって、家族が家族として生きていくバランスを維持しています。こうした理由から、一方的な支援や介入は避けるべきです。大切なのは、自然な関わり合いのなかで、本人や家族の意思を尊重しながら、負担軽減のための選択肢を示していくことです。

しかし、状況が深刻になればなるほど八方ふさがりになり、本人や家族が自らの意思で支援者が示した選択肢を選んでいくことも難しくなります。また、年齢に応じた体験の機会や進路選択のタイミングに、ケアの負担によって時間が経過してしまったり、示せる選択肢も少なくなってしまう。したがって「早期発見」が重要なのです。

ヤングケアラー支援の一般的なフロー



出典：令和3年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業「多機関連携によるヤングケアラーへの支援の在り方に関する調査研究」

ヤングケアラーが抱える課題

学業への影響

● 家族のケアのために、自宅での十分な学業の時間が取れない
● 夜中のケアで十分な睡眠がとれず、日中に居眠りをする、遅刻気味になる、欠席が増える

進学・就職など将来への影響

● 経済的な不安から進学を諦めてしまう
● 家族のケアのために、選択肢を狭めてしまう

友人関係への影響

● 友人と交流を持つ時間が取れない
● 自分の生活と友達との生活が違うことを知り、距離を取ってしまう



Column

ヤングケアラーを支援対象とする法改正の動き

2023年末、こども家庭庁はヤングケアラーを国や自治体による支援の対象として法律に明記し、対応の強化につなげていく方針を決めました。2022年に公表された国の実態調査の結果では、小学6年生のおよそ15人に1人がヤングケアラーとしての生活を余儀なくされているデータも出ていることから、支援の法制度化は急務といえるでしょう。

法律の改正案では、ヤングケアラーを「家族の介護その他の日常生活上の世話を過度に行っていると認められる子ども・若者」と明記し、国や自治体には支援を行う努力義務を課すとしています。



ケーススタディから学ぶ

子どもたちへの支援のあり方

事例

● 祖父
● 母
● 高校生の子ども

心不全で入院を繰り返し、心不全で入院を繰り返している。訪問診療・訪問看護は利用しているが、介護サービスは拒否

シングルマザー、体調不良が続き、情緒不安定で仕事を休んでいる。神経内科へ通院中

ご家族の状況

母親は、父のケアや子どもの教育、経済的なことも含め問題が山積しているため、高ストレス状態です。加えて自身のメンタルが不安定なこともあり、うつ状態が常態化して物事の対処が難しい状況が続いています。また、このまま仕事を休むと解雇されるのではないかと心配しています。

子どもは食事の準備などの家事を手伝い、バイトに部活と忙しい生活を送っており、相当な負担を背負っています。

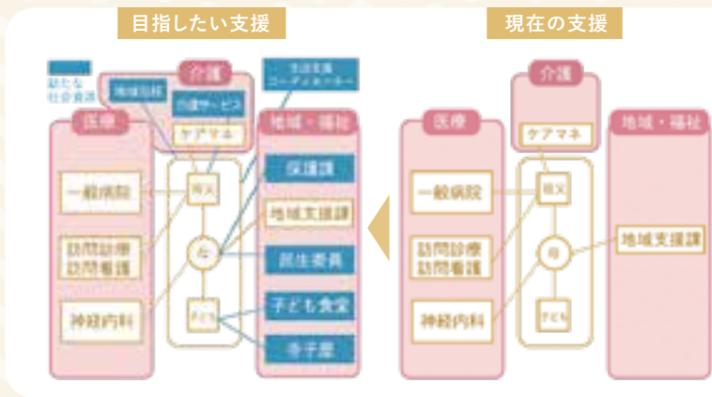
現在の取り組み

ケアマネジャーが母親にご自身の不安や子どもの話を聞くことに徹したところ、少し心を開いてくれるようになりました。祖父に関しては介護サービスを拒否している理由がよく分からないので、世間話をしながら探っています。

また、ケアマネジャーから地域包括へ世帯の見守りをお願いしました。

支援への重要ポイント

祖父(ターミナルケア)、母(ダブルケア)、子ども(ヤングケアラー)と、おのこの生活課題が複合的に絡み合っており、家族内で解決しようとする、"だれかの課題解決はだれかの負担"になってしまう。そのため、それぞれの立場に立てる支援者とその連携が必要で、ヤングケアラーの支援では、家庭の外で安心して過ごせる居場所や、相談のつてもらえる大人へいかにつなげていくかが重要です。



INTERVIEW

ヤングケアラー支援で ケアマネジャーができること

ケアマネの立場は 子どもにも寄り添える

あるでしょう。ケアマネジャーは常日頃から家族の支援をしているので、子どもとの信頼関係を築きやすく、寄り添い代弁できるのではないのでしょうか。

ケアマネの関係機関に つなげる力に期待

加えて、日頃からネットワークを築いているケアマネジャーだからできる、関係機関につなげることに目を向けていただきたいと思います。フォーマルな相談先として、経済的支援が必要であるご家庭であれば保護課、18歳までのお子さんと家族に関する相談は、地域まもり支援センターの地域支援課となります。インフォーマルな支援先として、子どもの食の確保や居場所、学習に不安を抱えているようであれば、子ども食堂や寺子屋につながります。また、母親を支援機関につなぐことも、子どもの支援につながるでしょう。

ケアマネと共に進める 「地域のつながりづくり」

生活支援
コーディネーター

ケアマネジャーは地域包括支援センターを通して、民生委員さんに見守りをお願いしたり、保護課や地域支援課につなぐなど、ヤングケアラーを発見して孤立させない地域づくりが欠かせない存在とも言えます。生活支援コーディネーターは子どもから大人までを対象としていますので、ケアマネジャーとともに、支援のはざまにあるヤングケアラーをできる限り支援できるよう、子ども食堂など、社会資源とのネットワークの構築を行っています。また、このような事例を通して、日頃の近所づきあいの延長で住民同士が助け合える「地域のつながりづくり」に取り組んでいきたいと思っています。

社会資源 〜地域の支え〜

地域まもり支援センター (地域支援課)

すべての地域住民が安心して暮らせるよう、医療・介護・福祉・生活支援などが切れ目なく一体的に行われる「地域包括ケアシステム」を推進するために設置されたセンター。保健師・栄養士・社会福祉士などの専門職が関係機関と共に連携し、高齢者、障がい者、子どもや子育て中の親への支援を行います。

民生委員・児童委員 主任児童委員

民生委員・児童委員は、自らも地域住民の一員として区域を担当し、生活のことで悩みを持っている方の相談に応じ、必要な場合には役所や関係機関につなげます。

主任児童委員は、児童福祉に関することを専門的に担当する民生委員・児童委員。担当区域を持たずに、民生委員・児童委員と学校や児童福祉関係機関と連携して、児童に関する相談・支援を担当します。

子ども食堂

子どもが一人でも行ける無料または定額の食堂です。子どもへの食事と居場所の提供だけでなく、共働きの両親や高齢者、地域住民との交流の場として運営しているところもあります。

寺子屋

学校施設を活用しながら、学習支援・体験学習・世代間交流を行っています。子どもたちは、自分が通学している学校の寺子屋を利用することができます。寺子屋には、元教員をはじめ保護者や地域住民、学生など、さまざまな人が寺子屋の先生として関わっています。

編集後記

ヤングケアラーへの認知度は広がっているものの、制度確立に向けて行政の取り組みは始まったばかりです。その中でたまふれあいグループが果たす役割やケアマネジャーとの連携は重要であると考え、今回の特集として取り上げました。地域の「おせっかい焼き」になり、地域で暮らす人々のために貢献していくこと、そのためにも今回の特集をきっかけにヤングケアラー支援にも目を向けていただき、皆さまとつながることができたら幸いです。

ヤングケアラーの支援に関しては、家庭の中に踏み込まないと発見できない、適切な支援に結びつけることが難しい点があります。たとえば、介護が必要な家族のことで地域包括支援センターにつながっても、当機関は主に高齢者を対象としており、ヤングケアラー支援の専門相談先ではありません。地域の福祉活動を行う民生委員は、家族や本人からの相談があつて初めて介入が可能となります。そのため、家の中に入ることができ、生活環境から家族状況を把握できる立場にあるケアマネジャーがヤングケアラー支援において果たす役割は大きいと考えます。家族の世話をする子どもに対して「自分はヤングケアラーだ」という意思を確認することはとても困難です。家族だから介護して当たり前、困っている家族の手前、声を上げづらいことも



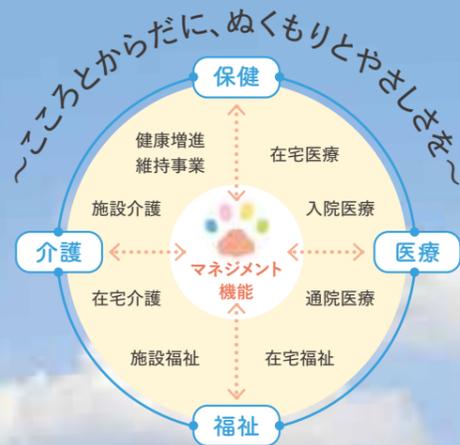
地域で暮らし、 地域で生きる ということ。

人々は地域で暮らし、地域の中で生きています。

世の中がどれほど発達したとしても、
人々の暮らしは地域の中にあります。

そして、たとえどんなに科学技術が進んだとしても、
人が人へ伝えるぬくもりや、やさしさを
超えることはできないと考えています。

だからこそ、私たちは地域に徹底した
こだわりを持ち続けます。



地域の人々の、
よりよい生活と人生のために



たまふれあいグループは、医療・介護・福祉・保健事業を
統合的に展開する医療法人グループです。

- たまふれあいクリニック
訪問診療／専門外来／訪問リハビリテーション
- たまふれあい訪問看護ステーション
- たまふれあい居宅介護支援事業所
- たまフレ！（障がい者相談支援事業所）
- たまふれあいの森
健康相談／セミナー／健康チェック
川崎市多摩区登戸1763 ライフガーデン向ヶ丘2F
- たまふれあいグループホーム 枳形（医療・看取り対応型）
- ナース&ケアハウス ふれあい（看護小規模多機能型居宅介護）
川崎市多摩区枳形6-19-8
- たまふれあいグループホーム 登戸新町（医療・看取り対応型）
川崎市多摩区登戸新町186
- デイサービスふれあい
川崎市多摩区生田3-18-2 アボードベア1F
- たまフレ！（障がい者就労支援事業所）
川崎市多摩区登戸2519-1 ヨシザワビル10ビル4F

ケアマネジャーの質問に多職種スタッフが答えます！

ケアマネの 気づき

2024年度の介護報酬改定の影響もあり「急な退院」
は今後増えることでしょう。入院時の早めの対応はもちろん
のこと、普段から病院とコミュニケーションを取ることで、医療
に詳しいケアマネジャーとしての成長につながります。



ベテランケアマネB
そうですね。ご利用者の早



新人ケアマネA
普段から病院の方と関係性
が築けていると、急な対応でもうま
く動けそうですね。そういえば、
2024年度の介護報酬改定では、
医療と介護の連携も重要テーマです
よね。



ベテランケアマネB
私も同じような経験があり
ます。大変ですね。私はこの地域に
長いこともあり、日頃からMSWの方
とコミュニケーションが取れていた
ので、情報共有は比較的スムーズでし
た。



新人ケアマネA
入院していたご利用者のご
家族から、お仕事の都合もあって「明
日退院します」と前日に連絡が来た
ことがありました。たんの吸引が必
要な方だったので、手技の確認やケア
プランの作成などに追われて、他のご
利用者の予定も調整することになり
大変でした。



新人ケアマネA
なるほど。「入院されたとき
から」というのが大事ですね。私はこ
の地域での活動の日も浅く、関係性
が築けていない病院も多いので、入院
のタイミングから動くことを意識し
たいと思います。



ベテランケアマネB
入院されたときから退院を
見据えて動くことです。入院時、看護
師さんに在宅での様子を伝えて、自
宅に戻る場合に必要になることを共
有したり、ご家族にもサービス調整
を含めてさまざまな準備が必要で
あることを具体的に伝えることです。



新人ケアマネA
ご利用者の退院をスムーズ
に行うためには何が大切でしょうか。

期退院が決まって高齢者施設に入居
される場合、施設側において速やか
な受け入れが努力義務化されるな
ど、退院時の対応がますます重要な
になります。

ケアマネ 相談室 File16

テーマ 親族の介入

考えた！



ベテランケアマネジャー
Bさん

いつもありがとうございます！

その17

たまふれあいグループ連携施設のご紹介

さつきグループ

☎044-948-6341

共同生活援助(グループホーム)



神奈川県川崎市
多摩区南生田2-16-14 桜の杜301
2003年4月1日開設
事業主体：社会福祉法人 生活工房

その人らしい地域での生活と、その人らしい自己実現を支援します

たまふれあい
クリニック
鈴木 忠院長より
おすすめ
ポイント

入居者様の体調や状態の把握力
も高いだけでなく、緊急時の対
応も迅速で、障がいの方への支援
に対する熱意も非常に高く、他に
類を見ないと思います。

さつきグループでは、多
摩区麻生区・宮前区にて
知的障がいの方を対象とし
たグループホームを13ユ
ニット運営しています。入
居者様の年齢層は幅広く、
20代から70代の方が生活
しています。
生活工場の理念は「その
人らしい地域での生活と、
その人らしい自己実現を支
援する」です。この理念を実
現するため、さつきグループ
では「できる限りルールを設
けない」「チームでの支援」の
2点に注力しています。
入居者様は、障害支援区
分の違いなどにより生活に
違いが生じます。その中で門
限などのルールを一律に設
定することは、可能性に制

限をかけてしまう場合があ
ります。そのためできる限
りルールを設けず、入居者様
の要望を確認しながらその
人に合う生活の提供に努め
ています。
「チームでの支援」では、
入居者様に合わせた支援
チームをつくります。チーム
にはグループホームの職員
や日中活動先の職員、相談
支援員、医師などが参加い
たします。さまざまな職種
が関わることで入居者様を
多角的に支援することがで
きます。
今後もこれらの考え方や
活動を大切に、入居者様
のその人らしい地域での生
活と、その人らしい自己実
現を支援してまいります。

ご利用者の自由や
可能性を大切にし
ていきます



さつきグループ管理者
(社会福祉士)
のだ ひろし
野田 弘さん



グループホーム
たまふれあいの家 登戸新町
ホーム長
はぎわら まさあき
萩原 正晃



これまでの経験を生かしながら、
よりよい介護福祉の体制づくりにも
携わっていきたいです！

たまレポ!

今月のインタビュー 地域相談室 相談員 **進藤 優里**

しんどう ゆり



こんにちわ! たまふれあい地域相談室です。

今回は、グループホーム たまふれあいの家 登戸新町のホーム長、萩原を紹介します。

萩原は、自身の親族が会社を経営していたこともあり、不動産賃貸物件管理会社や介護事業所経営・コンサルティング会社に勤めていました。しかし、親族の会社以外で実力を試したいと考えていたところ、特別養護老人ホームの職員募集を見つけ応募。その後、10年ほど勤め、そのうち施設長として7年間は施設運営にも携わりました。しかし、特別養護老人ホームでの看取りに限界を感じ、施設だけでなく在宅を含めた看取りに関して学び、携わりたいたと考えたまふれあいグループへ転職をしました。

入社して間もない萩原ですが、職員から看取りの対応などを学びながら、ご利用者が安心・安全な生活ができるよう改善していくことにやりがいを感じているとのこと。ホーム長として職員と連携をとりながら、ご利用者がより良い生活ができるよう日々まい進しています。

事業展開にも積極的です。現在多摩区には施設が少ないため、今後はたまふれあいグループが運営するような医療に特化した施設を増やしていきたいという意気込みも語りました。

また萩原は経験豊富で、神奈川県災害派遣福祉チーム(神奈川DWAT)の立ち上げに携わったことから、介護職員が自ら志願して災害時に活躍できるような体制をつくりたいとも。加えて、かながわ高齢者福祉研究大会に参加した経験から、施設での取り組みを研究発表したいと意欲にあふれています。

「本人のなじみのある場所で最期を迎えてもらいたい」と話す萩原。ぜひ気軽にお声がけください!



コーヒーが好きで、自分でコーヒー豆を挽いています。温度からしっかり測ります。好みの豆は「ラジャカロシ」です!



弟のような幼なじみが出演するミュージカルを観劇することが趣味です。



何度か譲渡会に足を運び、活発な女の子と巡り合いました!



息子3人がサッカーに携わり、写真は三男が真岡国体(栃木県)に出場したときの写真です。国体ライターの選ぶベスト11に選出されました! 息子たちに良い刺激をもらっています。

地域相談室

イケダのつぶやき



今回の特集はいかがでしたか? 私は「ヤングケアラー」について、テレビで何度か見聞きしたことがあるくらいでした。適切な支援が少ない、発見に時間がかかるために支援が遅れてしまうという現状を今初めて知りまし



た…。身近にお困りの方がいましたらぜひ、お近くの生活支援コーディネーターにお問い合わせください!

(地域相談室 相談員 **いけだ 池田あゆ**)



ご相談は下記の地域相談室までお電話ください

044-931-0220

〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1763
ライフガーデン向ヶ丘2F